

かずさ地域のアンテナマガジン。地元がもっと好きになる！

日東交通
高速バス
時刻表付

TokoTon

KAZUSA

2021 AUTUMN Vol.19

834
KAZUSA FM

休日かずさんぽ

木更津を遊びつくそう

イオンモール木更津

TAKE FREE
無料



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs特集

かずさ地域でSDGsに向けて動き出した企業



エフエムTOPIC

COOL CHOICE

かずさエフエムが木更津市と取り組むカーボンニュートラル

かずさエフエム TOKO.TON かずさ
「あの人に会いたい」

オルカ鴨川 FC GM 北本綾子さん 育成・普及コーチ 木原梢さん



スマートフォンでも
聴けます！



かずさ応援企業



かずさFM83.4
BREEZE RADIO



日東交通

我が社は「捨てさせない屋」です。

日本リユースシステム株式会社

〒千葉県木更津市潮浜1-17-105

☎0120-176-861 🌐http://www.nrscorp.jp/



「三方良し」を企業理念に様々なSDGs事業を展開

日本リユースシステム株式会社は「三方良し」を企業理念に掲げ、様々な国や地域で不要になったモノ・コトを必要とされる場所で活かしながら、社会問題を解決するSDGs事業を展開しています。

2005年に創業し、以来「捨てさせない屋」として、生き物を除くあらゆるモノやコトを、リユース業という枠にとられない視点で活かした結果、現在ではアジア、中東、アフリカを中心に世界の32の国や地域を相手にビジネスを行っています。

同社の事業の中で特に有名な取り組みが、衣類のお片づけ商品の「古着deワクチン」。2010年からサービス提供を開始し、長年にわたる社会問題の解決に対する支援と持続可能な取り組みが評価され、第3回ジャパンDGスワードにて「特別賞(SDGパートナーシップ賞)」を受賞しました。

古着deワクチンは、不要な衣類やバッグ・靴・服飾雑貨を専用回収キットに詰めて送るだけで、お部屋が片づくだけでなく、世界の子どものためにワクチンを贈るなどたくさんのソーシャルグッドに繋がるサステナブルなお片づけ商品です。

利用方法はとても簡単で、①古着deワクチンのHPから専用回収キットを購入し(1キット3300円(税込))、②届いたキットに衣類などを詰め、③宅配業者に集荷を依頼し発送するだけで完了。

衣類を送付するための専用着払い伝票がついているため送料不要で発送でき、またTシャツであれば約100着詰められるほどの大容量なキットが届くため、簡単・便利に家中の衣類をスッキリお片づけできます。

また、古着deワクチンを利用することで、



古着deワクチン
世界どこかで誰かの役に立つ衣類のお片づけ



●1キットごとに5人分のポリオワクチンを世界の子どものために寄付

●専用回収キットの梱包を国内の福祉作業所で行うことで、障がいを持つ方のお仕事に繋がる

●お送りいただく衣類等を開発途上国で販売することで、現地に雇用やビジネスを創出

●衣類等は捨てることなく、そのままの形で再使用するためエコに繋がる

●など、たくさんの方の社会貢献に繋がります。

●これまで累計で約343万人の子どもたちにワクチンを寄付し、2811万着以上の衣類を活かしてきました。また、SDGsの9つのゴール達成に貢献しています。

POINT

2021年秋、カンボジアに「古着deワクチン」の直営店舗がオープン!

2010年の取り組み開始から11年目を迎えた古着deワクチンが新しい取り組みをスタートした。

「支援を受けていた人が、支援する側に回れるように」をコンセプトに、お客様からお送りいただく衣類や服飾雑貨を販売、選別し、更に世界中に再輸出するための拠点となる直営の店舗・センターをカンボジアにオープンする。

現地で働くスタッフは、ポリオ(小児麻痺)による障がいを持つ方や、貧困世帯の方を中心に雇用し、この仕事を通して彼らが自立できるようにサポート。また、現地の店舗で洋服等が1点売れるごとに、1ワクチンが寄付される仕組みになっている。スタッフの方が自立できるだけでなく、仕事を通してたくさんの方を笑顔にすることができる工夫がなされている。

現地スタッフ
チム・ソディさん



「私はポリオが原因で、片足に障がいがあります。コロナと障がいのために、短期・単発のお仕事も見つからなかったところ、この仕事に従事できとても嬉しいです。障がいを持った色々なスタッフと一緒に働き、お客様をお迎えすることがとても楽しみです。」



お針子事業で「環境 人づくり企業大賞2019 環境大臣賞」受賞



ある調査によると、日本の家庭には推定で約7億着（40兆円）もの着物や帯が眠っていますが、ライフスタイルの変化と共に様々な理由で捨てられ、行き場をなくしています。

本来の用途では価値がなくなり「ゴミ」として捨てられていたものを「資源」として捉え、より価値のあるものに生まれ変わらせ、廃棄物を減らす「アップサイクル」や「サーキュラーエコノミー」とい

た概念のもと、着物や帯を「生地・素材」として用途を変え活用するのが「お針子事業」です。

一般家庭やリユース企業から不要になった着物や帯を集め、現在はモンゴルの現地法人へ輸出。モンゴルを中心とした周辺国では、民族衣装を中心とした服飾資材として活用されています。また、シミ・汚れなどの理由で、そのまま販売するのが難しいものについては、環境に優しい技術を利用し、Kimono Upcycle Cloth「ohariko」という布ロールの商品を日本やモンゴルの福祉作業所等と協力しながら製造しています。

お針子事業の取り組み全体で、SDGsの10のゴール達成に貢献しており、「使用されない着物や帯を有効活用するための仕組みを構築している。モンゴルや日本の福祉作業所で加工されることにより、付加価値のある製品に生まれ変わる等、資源の有効利用とビジネスとが連動している」点などが評価され、環境人づくり企業大賞2019にて「環境大臣賞」を受賞しました。



Kimono Upcycle Cloth「ohariko」の製造を担当する日本の福祉作業所



Kimono Upcycle Cloth「ohariko」服飾メーカーだけでなく、ハンドメイドユーザーにも人気です



日本の専門学校の生徒とコラボレーションした「お針子デール」をモンゴルのイベントでお披露目

日本の着物を、環境に優しく世界を代表する「ohariko」素材に

現在は日本とモンゴル周辺国を中心に展開しているお針子事業ですが、豪華な刺繍を施した日本特有の和柄と「アップサイクル」の取り組みという点が人気を集め、ヨーロッパやアメリカなどでも「素材」として注目されています。持続可能な社会づくりのため、環境に優しいアップサイクル生地「ohariko」を、世界を代表する素材にできるようこれからも取り組みを進めていきます。



スタッフコメント



ソドメグ・ナランゲレル
モンゴルの製造部門担当

私はこれまでヨーロッパや日本をメインに展開するグローバルな衣料品メーカーに勤めていました。その経験を活かし、日本の着物から生まれた「ohariko」素材を世界の方に自信を持ってお届けできるように、全スタッフと一丸となって日々製造しています。



望月美香
お針子事業担当

着物や帯は日本の誇るべき伝統文化ですが、様々な理由により、それらが不要なものとしてたくさん捨てられている現状を残念に思い、少しでも変えられればと始まったのがお針子事業です。これまでに累計で41万点以上の着物や帯を活かしてきましたが、これからもお針子事業の取り組みによって、廃棄される着物や帯を減らし、環境問題や日本の文化を若者や海外の方へ伝える懸け橋になることを願いつつ、SDGs達成に向けて一層励んでまいります。

更に詳しくお知りになりたい場合は、HPをご確認ください

古着deワクチン



日本リユースシステム株式会社

